

平成28年度第3回小平市国民健康保険運営協議会要録

日 時 平成29年1月25日（水）午後1時30分開会
場 所 小平市役所3階 庁議室
出席者 会長及び委員10名、計11名（欠席者6名）
議 題 1. 高額療養費資金貸付の見直しについて 【諮問・答申】
2. 平成28年度小平市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）（案）について
3. 平成29年度小平市国民健康保険事業特別会計予算（案）について
傍聴者 4名

[主な質疑等]

議題1 高額療養費資金貸付の見直しについて

委 員 : 基金廃止後の対応（予算措置）は、平成29年度予算（案）の歳出8款、保健事業費の貸付金（出産費、高額療養費）、100万円よろしいか。

事務局 : その通りである。

委 員 : 今後の貸付件数の見込みは。また、貸付対象者を国保の被保険者に限定することについて、現在は被用者保険の被保険者も貸付の対象だが、過去において、国保の被保険者以外への貸付実績はあるか。

事務局 : 今後の貸付は、発生しても1、2件程度と考えている。

また、過去10年間において、国保の被保険者以外への貸付実績はない。

委 員 : 貸付需要の大幅な減少は限度額適用認定証の交付によるものであるが、直近の限度額適用認定証の交付数（実績）は。

事務局 : おおむね、年間1,300件程度である。申請時に保険税の納付状況等を確認し、要件を満たせば交付している。

委 員 : 貸付金のうち、未回収分はあるのか。

事務局 : 全て基金に戻している。現在の基金残高は800万円（原資全額）である。

会 長 : 他市を含め、全体的な傾向として、基金は廃止していく動きなのか。高額療養費制度が充実し、貸付制度そのものの意義が薄れてきたように思うが。

事務局 : 26市のうち、現時点で基金を保有している市が21市。そのうち小平市と、もう1市が今年度の廃止を検討している。また、10市で貸付の実績がある（基金の有無にかかわらず、歳出予算で措置する市もある）。

議題2 平成28年度小平市国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）（案）について

○ 質疑なし

議題3 平成29年度小平市国民健康保険事業特別会計予算（案）について

委員：国保の被保険者数は昨年より減少する。小平市の住民は増加していると思うが、その関連性は。転入者の多くは、被用者保険加入者なのか。

事務局：小平市の最近の転入・転出の状況として、国勢調査では19万人を超え、市の人口（住民基本台帳の人口）も微増という傾向が数年続いている。比較的大規模なマンションの開発の影響もあり、転入の方が転出より多く、サラリーマン世帯や子育て世帯の転入が比較的多いという印象である。国保の被保険者の割合はおおむね4分の1（25%程度）だったが、最近は23%台となっている。

委員：歳入10款、繰入金について。一般会計からの繰入金が26億円で、28年度と比較し3,000万円の減だが、運営基金からの繰入金は28年度と比較してどうか。

事務局：28年度当初予算における運営基金の繰入金はゼロである。29年度、一般会計繰入金は3,000万円減としたが、基金を含めた合計で比較すると、1億2,700万円、繰入金全体では増である。増の原因は、被保険者数の減少による保険税収入の減によって、歳出の保険給付費と、歳入の税収入のバランスが前年度に比べて悪くなったため、運営基金を繰入れることによって歳入を確保するものである。保険税については、28年度に改定を行ったことで前年度比7.0%の増となったが、平成29年度は被保険者の減少による影響で保険税が35億4,300万円余り、前年度比で6.7%減となる。1年前に上がった税収入が、また2年前の規模に戻ることに、一方で保険給付（医療費）の下がりが小さいという状況である。

委員：歳出8款、保健事業費、医療費適正化で3,080万円とあるが、28年度と比べてどう推移（増減）しているのか。

事務局：29年度は、大きく分けて、データヘルス計画に伴う事業と、計画策定（特定健診実施計画及びデータヘルス計画）の経費を計上している。データヘルス事業としては2,480万円で、前年度と同額での計上である。

会長：ジェネリック医薬品の現状の状況（普及率）は。

事務局：小平市のジェネリック医薬品の普及率は、昨年度最終時の60%から5ポイント上昇し、直近で65%台となった。年度途中のため、今後若干伸びる要素がある。政府では29年度の半ば70%という目標を掲げている。

以上